

創世記12：1-20「アブラハムに対する神の召し」

12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」 12:4 アブラムは【主】がお告げになったとおりに出かけた。ロトも彼といっしょに出かけた。アブラムがハランを出たときは、七十五歳であった。 12:5 アブラムは妻のサライと、おいのロトと、彼らを得たすべての財産と、ハランで加えられた人々を伴い、カナンの地に行こうとして出発した。こうして彼らはカナンに入った。 12:6 アブラムはその地を通って行き、シェケムの場、モレの檜の木のところまで来た。当時、その地にはカナン人がいた。 12:7 そのころ、【主】がアブラムに現れ、そして「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」と仰せられた。アブラムは自分に現れてくださった【主】のために、そこに祭壇を築いた。 12:8 彼はそこからベテルの東にある山のほうに移動して天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は【主】のため、そこに祭壇を築き、【主】の御名によって祈った。 12:9 それから、アブラムはなおも進んで、ネゲブのほうへと旅を続けた。 12:10 さて、この地にはききんがあったので、アブラムはエジプトのほうにしばらく滞在するために、下って行った。この地のききんは激しかったからである。 12:11 彼はエジプトに近づき、そこに入ろうとするとき、妻のサライに言った。「聞いておくれ。あなたが見目麗しい女だということを私は知っている。 12:12 エジプト人は、あなたを見るようになると、この女は彼の妻だと言って、私を殺すが、あなたは生かしておくだろう。 12:13 どうか、私の妹だと言ってくれ。そうすれば、あなたのおかげで私にも良くしてくれ、あなたのおかげで私は生きのびるだろう。」 12:14 アブラムがエジプトに入ると、エジプト人は、その女が非常に美しいのを見た。 12:15 パロの高官たちが彼女を見て、パロに彼女を推賞したので、彼女はパロの宮廷に召し入れられた。 12:16 パロは彼女のために、アブラムによくしてやり、それでアブラムは羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男女の奴隷、雌ろば、らくだを所有するようになった。 12:17 しかし、【主】はアブラムの妻サライのことで、パロと、その家をひどい災害で痛めつけた。 12:18 そこでパロはアブラムを呼び寄せて言った。「あなたは私にいったい何ということをしたのか。なぜ彼女があなたの妻であることを、告げなかったのか。 12:19 なぜ彼女があなたの妹だと言ったのか。だから、私は彼女を私の妻として召し入れていた。しかし、さあ今、あなたの妻を連れて行きなさい。」 12:20 パロはアブラムについて部下に命じた。彼らは彼を、彼の妻と、彼のすべての所有物とともに送り出した。

導入

一か月ほど前、最後に創世記の説教をした際は9章を学びました。今日は12章を学びますので、その前に10-11章の内容を手短に説明します。

10章と11章には、ノアの子孫の系図が記されています。この系図の途中に、神の裁きについての記載があります。これは、神がアブラムを特別な民の父として召された背景を紹介することを著者が意図したためと思われます。洪水の後、神はノアとその家族からこの世を作りなおされましたが、人々はまたすぐに墮落し、神の道ではなく自分勝手な道を歩むようになりました。

10章に登場するノアの子孫からひとりの人についてここで紹介したいと思います。それは、ニムロデです(10：8-9)。ニムロデは、「地上で最初の権力者」と記されています。

彼は、「力ある獵師」として知られるようになりました(9節)。ニムロデは、バベルの塔の設計建築者と考えられています。10節で、彼にはシヌアルの地に4つの王国があったと記されています。11：1-9で神が人々の言葉を混乱させられた後、ニムロデはアッシリヤに行ってニネベと4つの町を築きます。

ニムロデという名は「反逆」を意味します。彼は、すべての人を支配する権威と力を求めました。新しい宗教を作って、偉大な創造主なる神ではなく、自分自身を人々に拝ませようとしたのです。

サタンはなお、懲りずに人間の人生を操ろうとしていました。そして、ニムロデの人生を支配しました。しかし、神はその支配の手が世界に伸びるのを未然に防ぐため、この世の言語を混乱させることになさいました。これにより、お互いの話す言葉が理解できなくなり、人々は世界各地に散らされたので、バベルの町の建設を諦めました。

これは、創世記9：1で神が与えられた指示が成就するためでもあります。神は、ノアとその家族に向かって、地に満ちよとおっしゃいましたが、彼らはその指示にまだ従っていませんでした。

神のご計画は成功し、人々は世界各地に広がっていきました。

次に注目したい点は、11章26節にあるアブラムの紹介です。そこには、テラは七十年生きて、アブラムを生んだとあります。11：10-26には、アブラムの祖先の系図がノアの息子セムまでさかのぼって記されています。これは、アダムからヨセフ、そしてイエスへと系図をたどる際に重要な情報です。（ルカ3：23-38参照）ユダヤ人は、家系を非常に重要視します。モーセはそのことを知っていたので、アブラムが神に召される場面が続く個所に、この情報を挿入したのでしょう。

11章27-32節は、アブラムにサライという不妊の妻がおり、兄弟ナホルにはミルカという妻がいたと語ります。また、テラにはもうひとりハランという息子がおり、その息子がロトであることもわかります。残念ながら、ハランはカルデヤ人のウルに住んでいた当時に亡くなりました。遺された家族はともにカナンの地に向けて出発しましたが、ハランにたどり着くと、そこに住むようになりました。テラはハランで亡くなりました。

ここから、12章の学びに入ります。

1-3節には、神がアブラムになさった4つの約束が記されています。

1. 民 — 神は、アブラムを大いなる国民とする、と約束されました。妻のサライは不妊でしたから、神のこの約束を信じるにはずいぶん「信仰」が要りました。そのような国民はどこから与えられるのでしょうか。サライが一人でも子を産むためには、大いなる神の「恵み」の奇跡が必要でした。
2. 地 — 神はアブラムに新しい故郷を約束されました。そのとき、アブラムはそれがどこかは知らされていませんでした。神は、ご自身がその地を示すとおっしゃいました。5-6節を読むと、それがカナンであることがわかります。
3. 守り — 神は守りについてアブラムに次のように説明されました。アブラムの味方をしてくれる人たちは神から祝福を受け、アブラムに敵対する人たちは神ご自身から呪われる、という内容です。これ以上の守りはありません。創世記の中には、神のご臨在というかたちでこの守りが見られる個所もあります（創世記28：15）。
4. 計画 — 最後に、アブラムに対する神の召しには将来設計と計画がありました。3節には、アブラムをとおして地上のすべての民族が祝福されるとあります。アブラムは、神が全世界に祝福をもたらす媒体となるのです。

全能の創造主なる神によってアブラムは召されました。これについて注目すべき点がいくつかあります。

1. アブラムに対する神の召しは説明できない。
歴史に目を向けると説明できない。

創世記1-11章で、神がこの世を創造なさってから3つの大きな事件が起こりました。アダムとエバがエデンの園で神に背いたこと、次に人類に対する神の御怒りが世界規模の洪水を引き起こしたこと、そしてバベルの塔の建設の裁きとして言語が混乱させられたことです。神の主権と交わりを抜きに物事をするのを好むのがこの世の歴史です。呪われ、破壊され、散らされた世界です。あなたが神だったなら、この自らが造った世界と人類に最後の裁きを下そうと思いませんか。

しかし、裁きではなく、恵みが与えられました。恵みとは、この世が受けるに値しないものを受けることです。神は、アブラムをとおしてこの世を祝福しようとなさっていました。これは、神の「恵み」以外に説明がつかないことです。

個人に目を向けても説明できない。

アブラムの人生は、神の目に留まるような特別なものではありませんでした。ヨシュア記24：2を読みましょう。

ヨシュア 24:2 ヨシュアはすべての民に言った。「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。『あなたがたの先祖たち、アブラハムの父で、ナホルの父でもあるテラは、昔、ユーフラテス川の向こうに住んでおり、ほかの神々に仕えていた。

アブラムは、子どものころから他の神々に仕えていました。唯一まことの神に仕える習慣はありませんでした。しかし、偶像を拝む罪人であるアブラムを召されました。これは、神の「恵み」以外に説明のしようがありません。

2. アブラムに対する神の召しは成功した。(4-5節、7-9節)

アブラムは75歳で神の召しに従い、住んでいた土地を離れました。これが成功したカギは、4節の「アブラムは【主】がお告げになったとおりに出かけた。」という言葉にあります。

アブラムは、唯一の創造主なる神を礼拝し、敬い、たたえるよう教えられて育ったわけではありません。

しかし、神に召されるとすぐ、彼は進んで従いました。アブラムが主に祭壇を築いたという記述も二度あります(7、8節)。この祭壇を築いた目的は、アブラムを召してすばらしい約束を与えてくださった唯一まことの神にいけにえをささげるためでした。アブラムは、贖いの許に神の御前に出ました。これは、罪のいけにえとして動物をささげることです。身代わりのいけにえでした。

アブラムは、主の御名によって祈りました。

数週間前、これが初期の「礼拝」のかたちであったと学びました。

公の場で神にささげる祈りと礼拝です。

アブラムに対する神の召しで大切なことは、神のことばがアブラムを動かし、アブラムが何を差し置いても神を礼拝するようになったことです。

これは、私たちのあるべき姿です。神が私たちの人生に「恵み」を与えて救ってくださり、暗闇からすばらしい神の光のもとへ招いてくださったなら、私たちはただ神のみことばに従い、人生をかけて神を礼拝することを第一にすべきです。

3. アブラムに対する神の召しは不可能に思えた。(6-7節)

アブラムに対する神の召しを不可能に見せる問題がふたつありました。まず、サライは不妊ですから、子どもを産めませんでした。次に、神がアブラムに約束された地はすでにカナン人という人々に占領されていました。この人々は、神が忌み嫌われる恐ろしい行為を

する人々でした。アブラムとその家族や子孫が住めるよう土地をやすやすと譲り渡したりはしません。

こういう状況ですから、アブラムに対する神の約束は不可能に思えました。

聖書を読むと、神は不可能と思える状況から偉大な業を始められることがあるとわかります。

宗教に熱心だったタルソのサウロという人は、クリスチャンを迫害していました。しかし、ある日、神はこの男性について不可能と思える約束をなさいました。

使徒9：13-16を読みましょう。

9:13 しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。 9:14 彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」 9:15 しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。 9:16 彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」

このときは不可能と思えましたが、神はご自身の御力と恵みによってこれを実現してくださいました。それは、サウロをとおして目的をなそうとされる神の業であって、サウロの功績ではありません。

なぜ神は、不可能を可能に変えるのを好まれるのでしょうか。

これについてパウロは、コリント第二1：8-9で次のように語ります。

1:8 兄弟たちよ。私たちがアジアで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにはいのちさえも危くなり、 1:9 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。

その答えは、不可能に見える場面で神を信頼することが求められ、私たちが自分の力や能力ではなく完全に神を頼るようになるからです。

その結果、不可能であるはずのことが実現すると、神が栄光をお受けになります。

私はこれまで神にお仕えしてきて、不可能に思えたことを神が驚くような方法で可能に変えてくださったという証がたくさんあります。

実話

23年ほど前、神は私たち夫婦をロンドンのある教会で仕えるように召されました。

その教会の役員たちも私たちも神の召しを確信していました。その教会は、大きな会堂を所有していたにもかかわらず、25名ほどの小さな群れでした。私たちはロンドンに引越し、しばらくは問題なく過ごしました。しかし、しばらくすると、教会の財政が苦しくなり、役員たちは、私に他で牧師職を探すように言いました。

私はこれに対し、神が私をこの群れに召されたのはたった一年半前だと反論しました。金銭面だけが問題なら、神が備えてくださると言いました。

神が備えてくださると言える信仰が私にはありました。しかし残念ながら、役員たちには同じような信仰がありませんでした。彼らはこの教会を離れ、私の給与支払いを止めてし

まったので、私は収入がなくなりました。役員たちは裕福な人たちでしたから、自分たちが教会を離れたら、その金銭的支援なしに私がそこにはいられないだろうと思ったようです。

私は神に助けを求めて祈りました。「この教会に私を召されたのはあなたです。私たち夫婦が信仰を持ち続け、収入がなくても教会で仕えつづけるなら、あなたがすべてを備えてくださるといふしるしを与えてください」と祈りました。

その約一週間後、水曜日夜のバイブルスタディを終えて帰宅すると、ウェンディが言いました。「さっき、ドアのポストに封筒が入っていたの。中身を見たら驚くわよ。」

封筒を開けると、そこには1,000ポンドが入っていました。約1カ月分の給料に相当する額です。

今なら25万円ほどの金額ですが、23年前ですから今の額よりも価値がありました。

そこには手紙も説明も何もありませんでしたが、私たち夫婦は、これこそ神が備えてくださるといふ神からのしるしだと確信しました。神はその後の8年間、この教会で仕える私たちの必要を満たしてくださり、そこで多くの人たちがイエスを信じる信仰に導かれました。

神に仕えるよう神から召されたなら、神は必ずあなたの必要を備えてくださいます。

困難な状況になれば、神が働いて備えてくださいます。

ヨハネ15：5でイエスは、「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができない」とおっしゃいました。

自力で達成できる事柄は、神にとっては何の価値もないのです。

私たちは喜んで神の御手に身をゆだねる器となる必要があります。そうすれば、ルカ1：37のみことばのように「神にとって不可能なことは一つもありません。」と心から言うことができますでしょう。

では、12章の後半の学びに進みましょう。

1. アブラムはエジプトで神を信じ切れなかった。

9節から、アブラムが南方へと旅を続けたことがわかります。この地に飢きんがあったので、食物を得るためにエジプトまで行ったのです。

エジプトに入る前にアブラムは、決して私たちがしてはいけないことをしてしまいました。神とその約束ではなく、自分の考えを頼りにしたのです。

アブラムは自分の妻がとても美しいのを知っていたので、エジプト人に妻を取り上げられて、自分は殺される、と思いました。

そこで、神の約束を一旦忘れて、自分の知恵に頼りました。そして神のことばをとおして聖霊によって導かれるのではなく、サタンに思考が影響されるのを許してしまいました。

箴言3：5は、自分の悟りにたよるなどはっきり教えます。そして、すべてにおいて神を認めるようにと語ります。

祝福の後に神がしもべを試されるのは珍しいことではありません。この場合、アブラムはしくじってしまいました。自分たち夫婦をエジプトでも神が守ってくださると信じることができず、自分で対処しようとしたのです。

イエスが洗礼をお受けになった後、天から「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」という神の声が聞こえました（マルコ1：10-11）。

その直後、マルコ1：12-13には、聖霊がイエスを荒野に追いやり、40日間もサタンの誘惑を受けられたとあります。

イエスとアブラムの違いは、イエスがサタンの声に神のみことばで対抗されたことです。アブラムは自分と妻の身を自分で守れると思ったのかもしれませんが、それは神から与えられた考えではありませんでした。彼は、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させてはいませんでした（コリント第二10：5）。

私たちは思考パターンを神のみことばである聖書にきよめていただかなくてはなりません。

そうでないと、人間の知恵にたどり着きます。アブラムはそのせいで、神のご計画を台無しにしてしまうところでした。

2. アブラムの対処法はうまく行ったように見えた。（13-16節）

アブラムは自分だけ助かれればよいと思っていたようです。すべて計算済みでした。妻には、エジプト人の高官にアブラムの妹だと嘘をつくように言いつけました。高官はまんまと騙されてサライをパロの宮廷に連れて行きました。そのおかげで、アブラムは羊や牛、ろばなどを受け取り、男女の奴隷まで所有するようになりました。

飢きんの地にいたアブラムは、エジプトで食べ物や快適な暮らしを思いのままにできるようになりました。

神のご計画がとん挫し、アブラムの計画が成功したように見えました。

神のみこころの道を外れると、サタンは喜んで一時的な幸せを掴ませてくれることがあります。しかし、それは長続きしません。物質的な祝福は、神の祝福のしるしではないことを覚えておいてください。神は私たちの必要を満たしてくださいますが、国産の軽乗用車で用が足りるなら、高級外車をお与えにはなりません。

多くのクリスチャンが神に物質的な祝福を求めますが、神が求められるのは、神の国と神の義を第一に求める人です。そうすれば、すべての必要は備えられます。

3. 最終的には神の力によって神のご計画が成就した。（17-20節）

17節で、神がこの状況に介入されたことが分かります。神はアブラムの妻サライのことで、パロとその家族にひどい災害を与えられました。アブラムが神の祝福を受けるチャンスをふいにしてしまったと思われたときに、神が介入してご自身の御力を示されました。

ここまでの個所は、アブラムがしたことが記されていますが、ここからは、神がアブラムへの約束を成就するために何がおできになるかが記されています。

災害の内容は記されていませんが、それがひどい災害だったと記されています。パロがアブラムにすべての所有物を持たせてエジプトから去らせるほどひどかったのです。パロは、サライがアブラムの妻であることを知りました。パロはサライを妻にしようとしていたのですから、すんでのところまで間に合ったというところです。

しばらくはアブラムの策がうまくいったように見えたのですが、最終的には、神のご計画が成就しました。

適用

では、12章の学びから、私たちの日常生活に役立つ教えは何でしょう。

まず、アブラムの召しにおいて明らかに私たちにも当てはめられることがあります。神は、世を愛されたので、アブラムを召されました。

神が世を深く愛されたからこそ、アブラムをとおしてご自身の約束を成就なさいました。

そうです。アブラムをとおして、地上のすべての民族が祝福されるのです。

アブラムをとおしてイエスが来られました。神がアブラムに与えられた召しは今も変わりません。12章1節で神がアブラムに求められたことは、マタイ10章37-38節でイエスが私たちに求めておられることと同じです。

10:37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。 10:38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。

ここでイエスがおっしゃっているのは、私たちの人生において神を第一にしなければならないということです。

神が私たちの心からの愛の対象であるべきなのです。

ここでお尋ねします。神を第一にするのを邪魔しているものは何でしょうか。これは大切な質問です。そして、この問いに答えられるのはあなた自身だけです。

次に、アブラムの失敗について考える必要があります。彼は、神が約束を守る力のあるお方だと信じないで、置かれた状況について自分なりの計画を立ててしまいました。

多くのクリスチャンは、聖書の教えを理解しても、なかなかそれを日常生活で活かせていません。どうしようもないときだけ神に介入してもらおうとする、困った時の神頼みのクリスチャンが多いのです。

万が一に備える保険のように神を扱い、自分の好きなように生きてはいけません。では、そのようにならないためには、どうすればよいのでしょうか。

1) 毎日の生活で神を意識する。

日々、神の導きを求めましょう。日常生活を送る中で得られる聖霊の促しに敏感になりましょう。

2) 神のみことばを計画的に読む。

毎日、神のみことばを読みましょう。神の語りかけに心を開き、正直になりましょう。神に示されたことには、些細な内容でもすぐに従いましょう。

3) 失敗はあります。あきらめないで。

自分の失敗や罪を神に打ち明けましょう。そうすれば、神は私たちを赦してくださいます。また、新たに従うチャンスを与えて成長させてくださいます。

4) できるだけ神の家族といっしょに過ごす努力をする。

とくに日曜にはそうするように努めましょう。日曜に仕事をしている人もいると思いますが、できるだけ努力しましょう。

外国に住んで国際的な教会に集っているときには、信仰や献身が後退してしまいやすいものです。

悪魔は常に、私たちの弱点を突いてきます。交わりから離れているクリスチャンには、その効き目が高いようです。

ですから、悪魔にすきを与えないようにしましょう。イエスのために最善を尽くしましょう。

神はみことばでおっしゃいます。「わたしは、わたしを尊ぶ者を尊ぶ。」（サムエル第一 2 : 30b)